

ブログに書いた、「ドローダウンが少なくて10pips～30pips狙いの手法」 を転載したまとめ

印刷を考慮してできるだけ白っぽく作成

この手法のテーマ

- 1回のトレード(数時間)で概ねMIN10pips～MAX30pips程度を取るイメージ
- 反転や急騰、急落を当てるためではない
- 小さいトレンドフォローを目的としており、できるだけドロダウン(含み損や損失)が少なくなるように考えてある
- 小さいトレンドにどのタイミングで乗るかを示す、通算損益がマイナスの初心者用手法

注意事項①

- この手法だけで勝てる、勝ち続けられるという必勝法ではない
- 数ある手法のひとつ
- しかしこれだけでも月間損益はプラスにできると考えている
- 完全にオリジナルの手法で、まだまだ完成形ではない

注意事項②(損切り／利確)

- この手法は、インのサインは出るが、利益確定や損切りのサインはない
- 損切り幅は概ね10pips程度を想定
- 利益確定は概ね10pips～MAX30pipsの中で裁量になる(後述している「インした後の注意点」に該当する条件が1つ、2つと増えたら決済でも良いし30pipsまで待っても良いが損切りは10pips～MAX12pips程度を守る)
- 利益確定を30pips以上狙うと失敗するケースが格段に増える

注意事項③(免責等)

- この手法を試して損しても責任は負えません
- 著作権のようなことは主張しません
- ただし「あの人が儲かる手法だと言ってた」などでの二次利用はしないでください

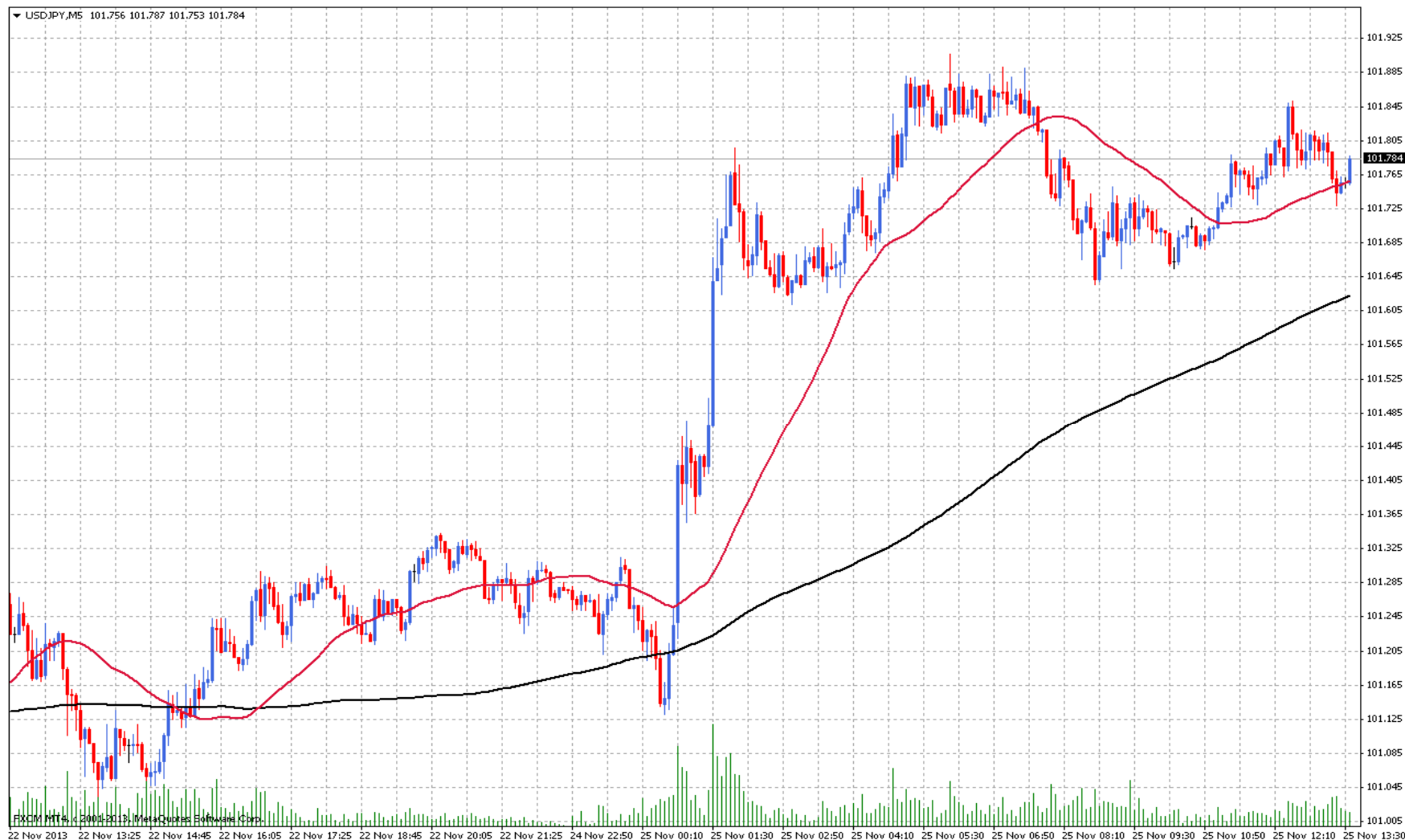
チャートのセットアップ

- 5分足に200本移動平均線と40本移動平均線を表示させる(40本移動平均線は1分足の200本平均線を見ているのとほぼ同じこと(全く同じではない))

※次の作成例はMT4で作成しており出来高も表示している(別にMT4以外でもよい)

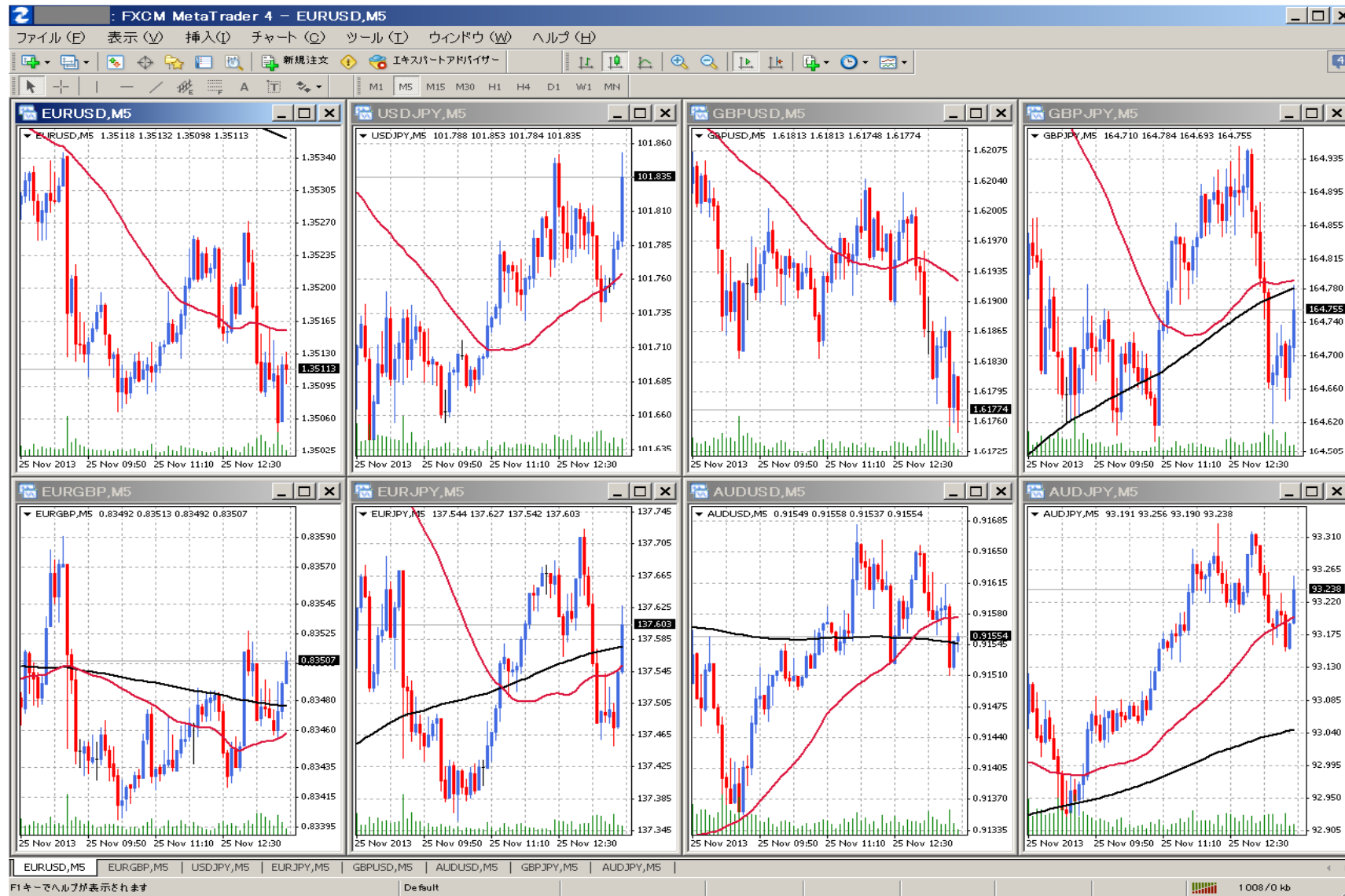
- 作成例

赤=40MA 黒=200MA(色などは好みで)



• 実際にサインが出るまではこんな感じで8通貨 貨ペア見ながら待っている

私がトレードしている実際の画面ではない



ロングでインする場合のサイン

- 条件1.M1/200MA (M5/40MA) がM5/200MAの上にあるか
- 条件2.M1/200MA (M5/40MA)、M5/200MAが上向きか
- 条件3.ローソク足(確定足)がM1/200MA (M5/40MA)の上で終わっているか

ロングでインした後の注意点

- 条件4.M1/200MA (M5/40MA) が下向きになった
- 条件5.M1/200MA (M5/40MA) がM5/200MAの下になった
- 条件6.ローソク足(確定足)がM1/200MA (M5/40MA)の下になった
- 条件7.ローソク足(確定足)がM5/200MAの下になった

ロングでインした後厳しいパターン

- 条件8.M1/200MA(M5/40MA)、M5/200MAのどちらも下向きになって、更にローソク足(確定足)がM1/200MA(M5/40MA)、M5/200MAの下に入った

ショートでインする場合のサイン

- 条件9.M1/200MA (M5/40MA) がM5/200MAの下にあるか
- 条件10.M1/200MA (M5/40MA)、M5/200MAが下向きか
- 条件11.ローソク足(確定足)がM1/200MA (M5/40MA)の下で終わっているか

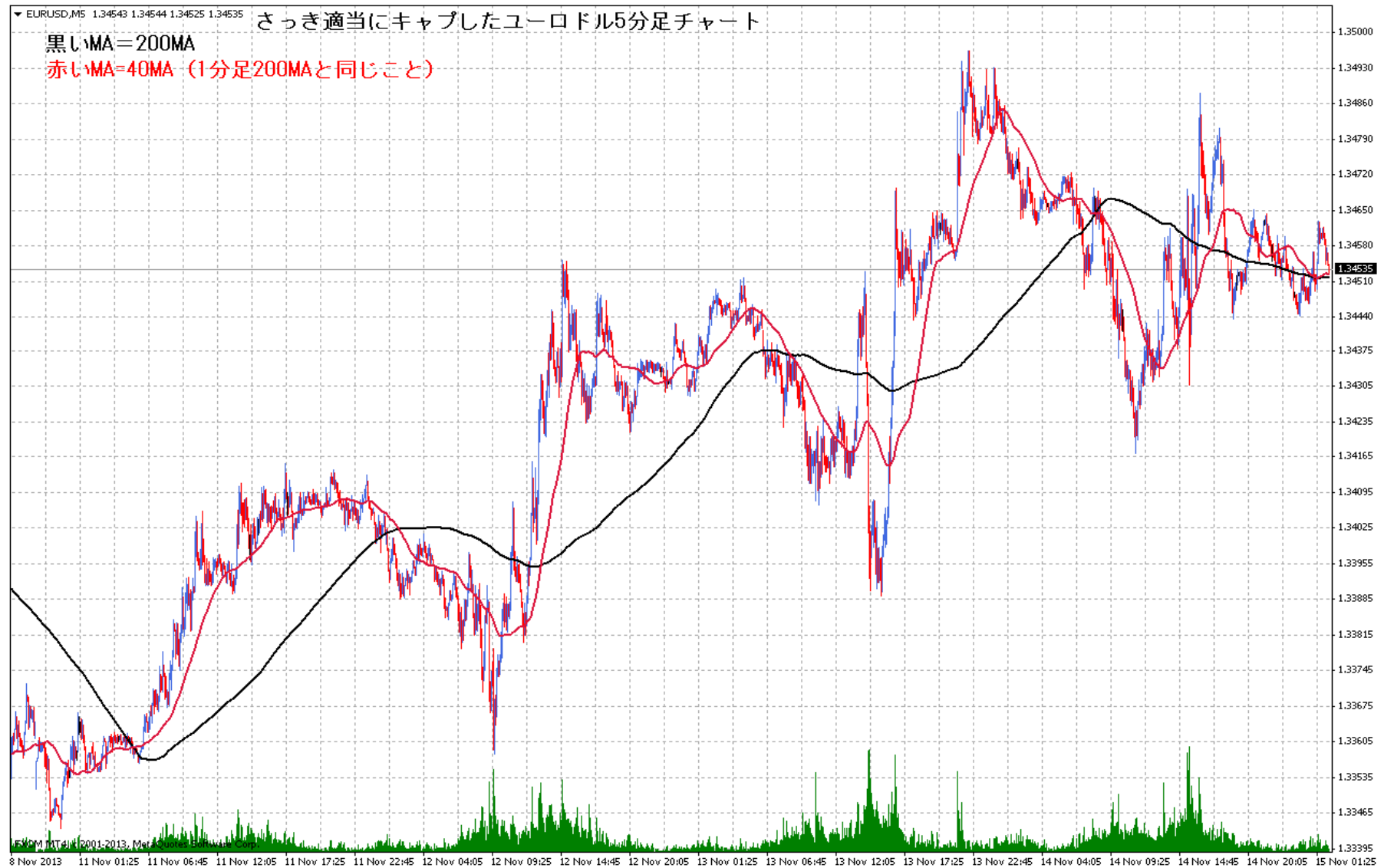
ショートでインした後の注意点

- 条件12.M1/200MA (M5/40MA) が上向きになった
- 条件13.M1/200MA (M5/40MA) がM5/200MAの上になった
- 条件14.ローソク足(確定足)がM1/200MA (M5/40MA)の上になった
- 条件15.ローソク足(確定足)がM5/200MAの上になった

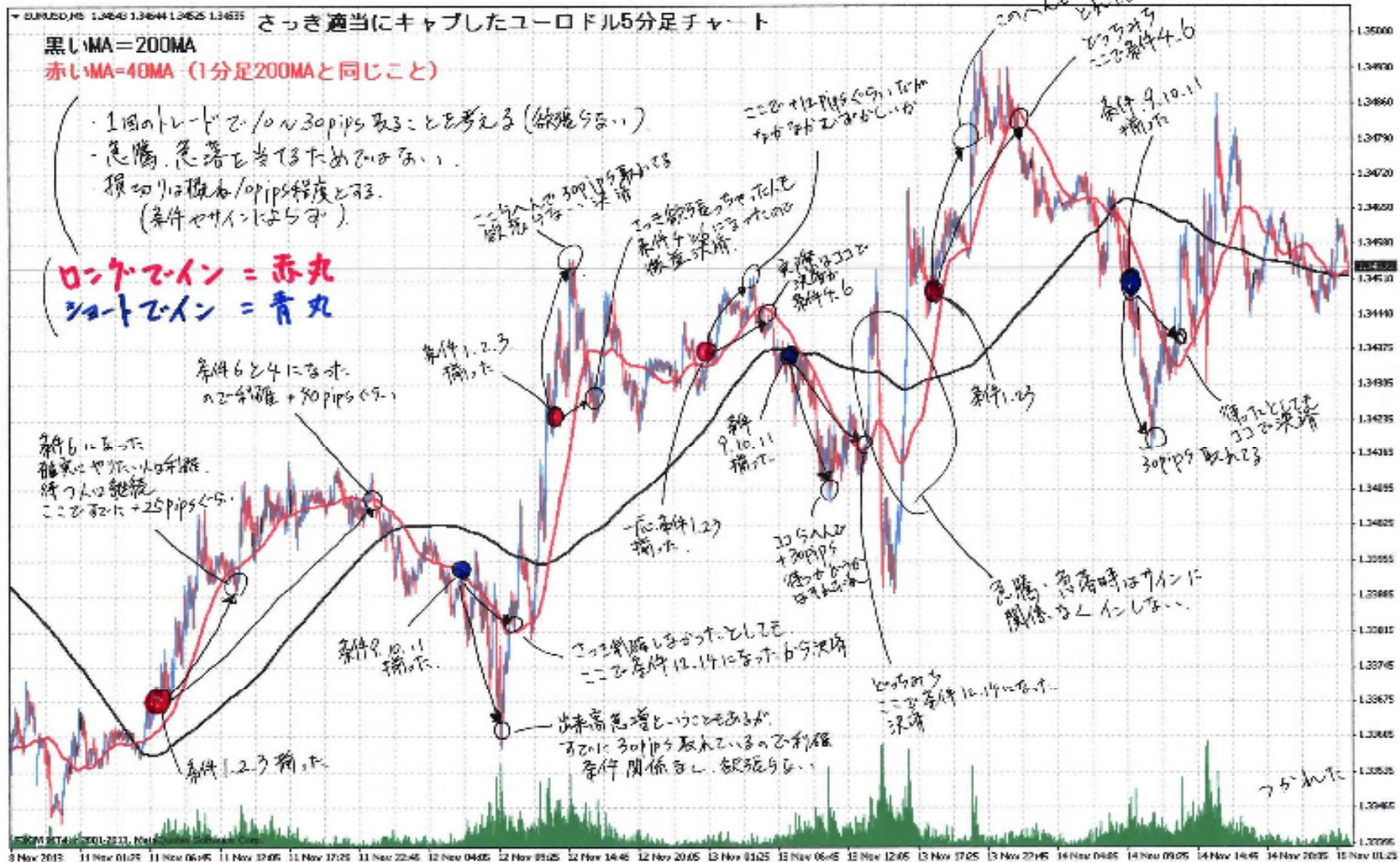
ショートでインした後厳しいパターン

- 条件16.M1/200MA(M5/40MA)、M5/200MAのどちらも上向きになって、更にローソク足(確定足)がM1/200MA(M5/40MA)、M5/200MAの上になった

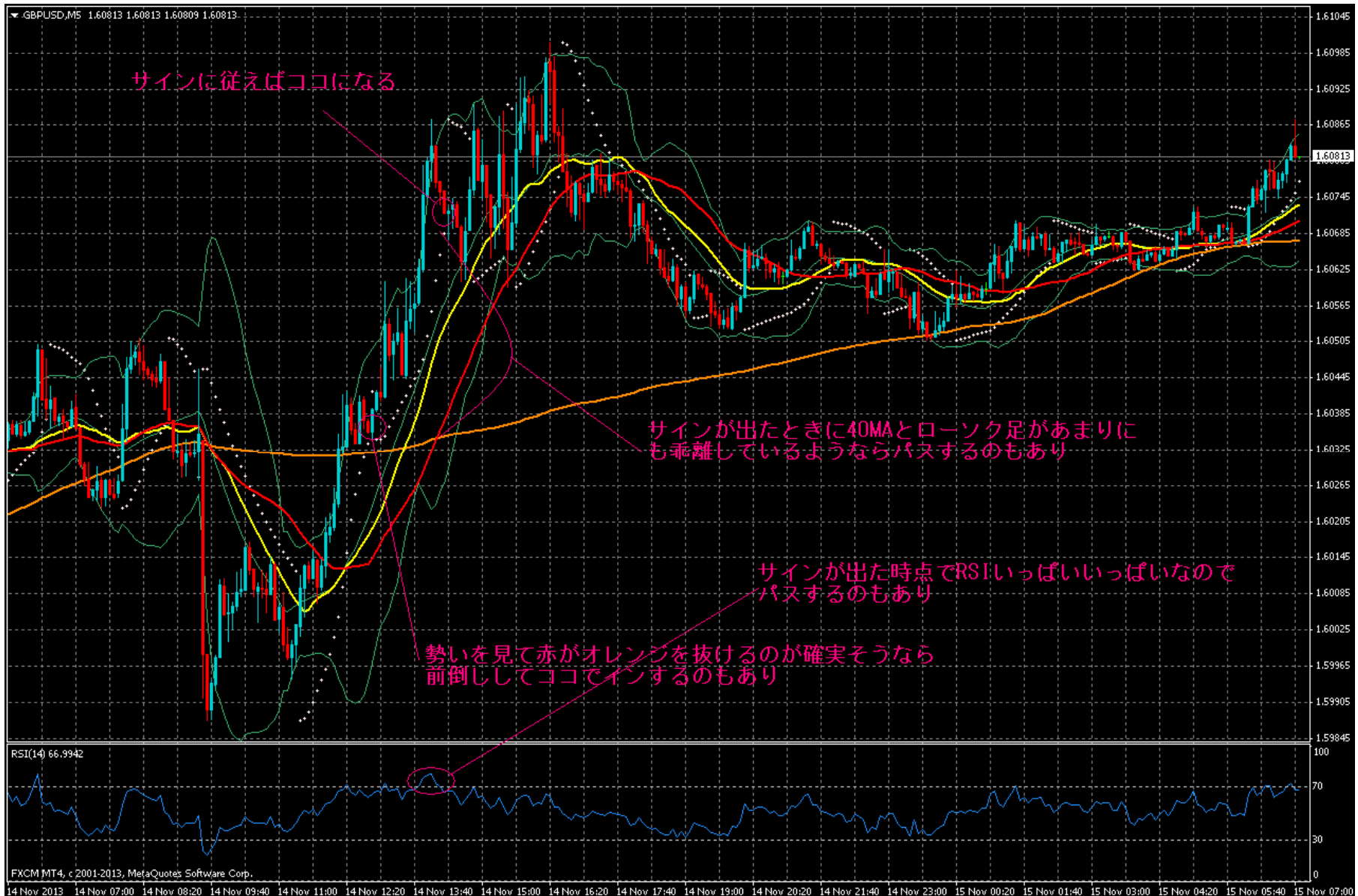
トレード事例①(手書き前のチャート)



トレード事例①(手書きで記入)



トレード事例②(失敗例:ブログから転載)



トレード事例②(失敗例:ブログから転載)

- 赤が40MA、オレンジが200MA
- 条件1、2、3が揃ったのでロングでインしたが、含み損を10pips抱える場面がある(人によってはここで損切っている)
- その他考え方の注意点は画像にピンク文字で記載のとおり

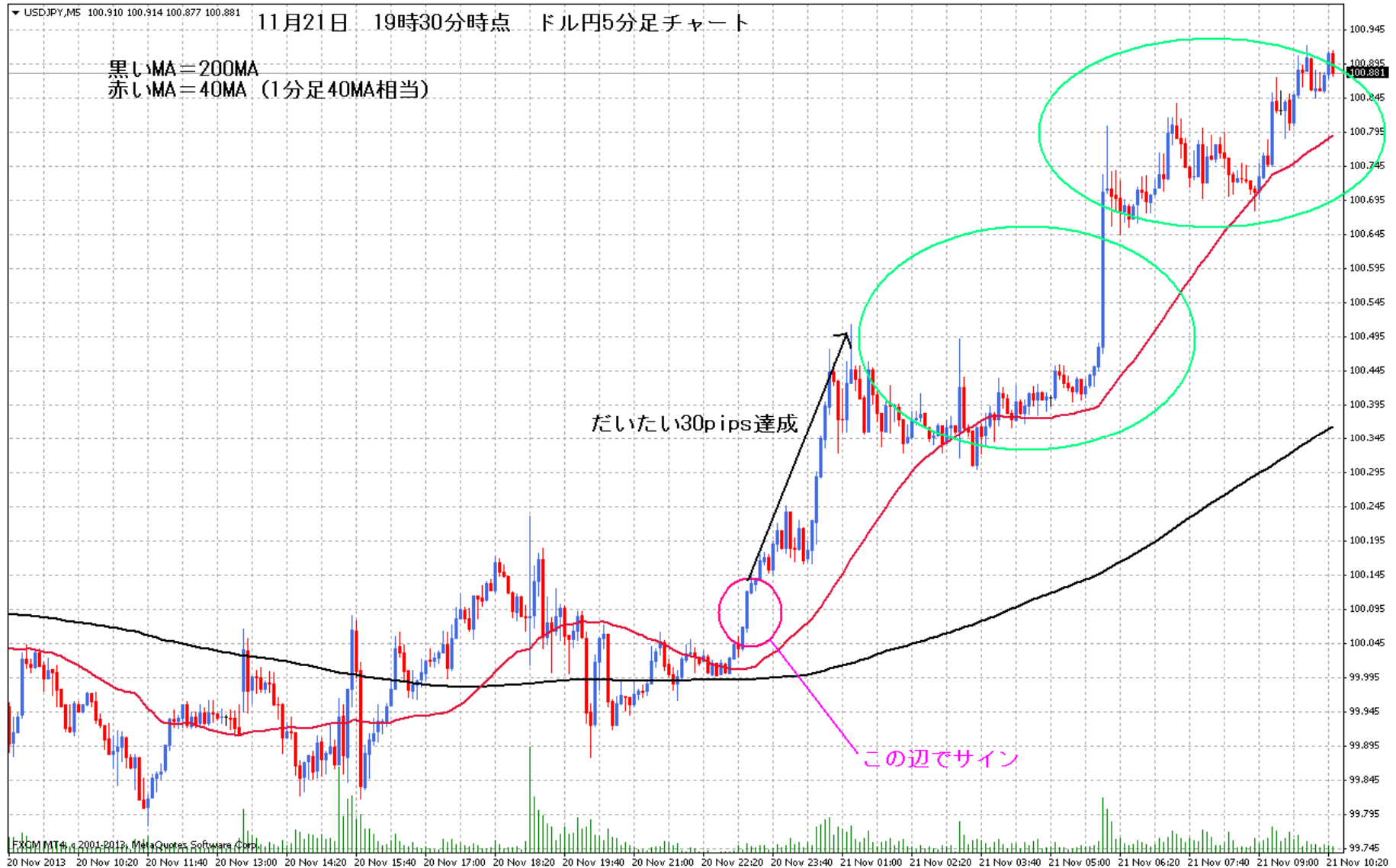
トレード事例③(ドル円ショート)



トレード事例③(ドル円ショート)

- 画像には40pipsと書いてあるが実際のトレードでは欲張らずMAX30pipsを守る
- 本来ならば通貨ペアごとにボラティリティが違うので、損切り幅や利確幅は細かく設定すべきである。ただ、今回の手法は決済のタイミングを流動的にしてあるのであえて通貨ペアごとに細かく設定していない。

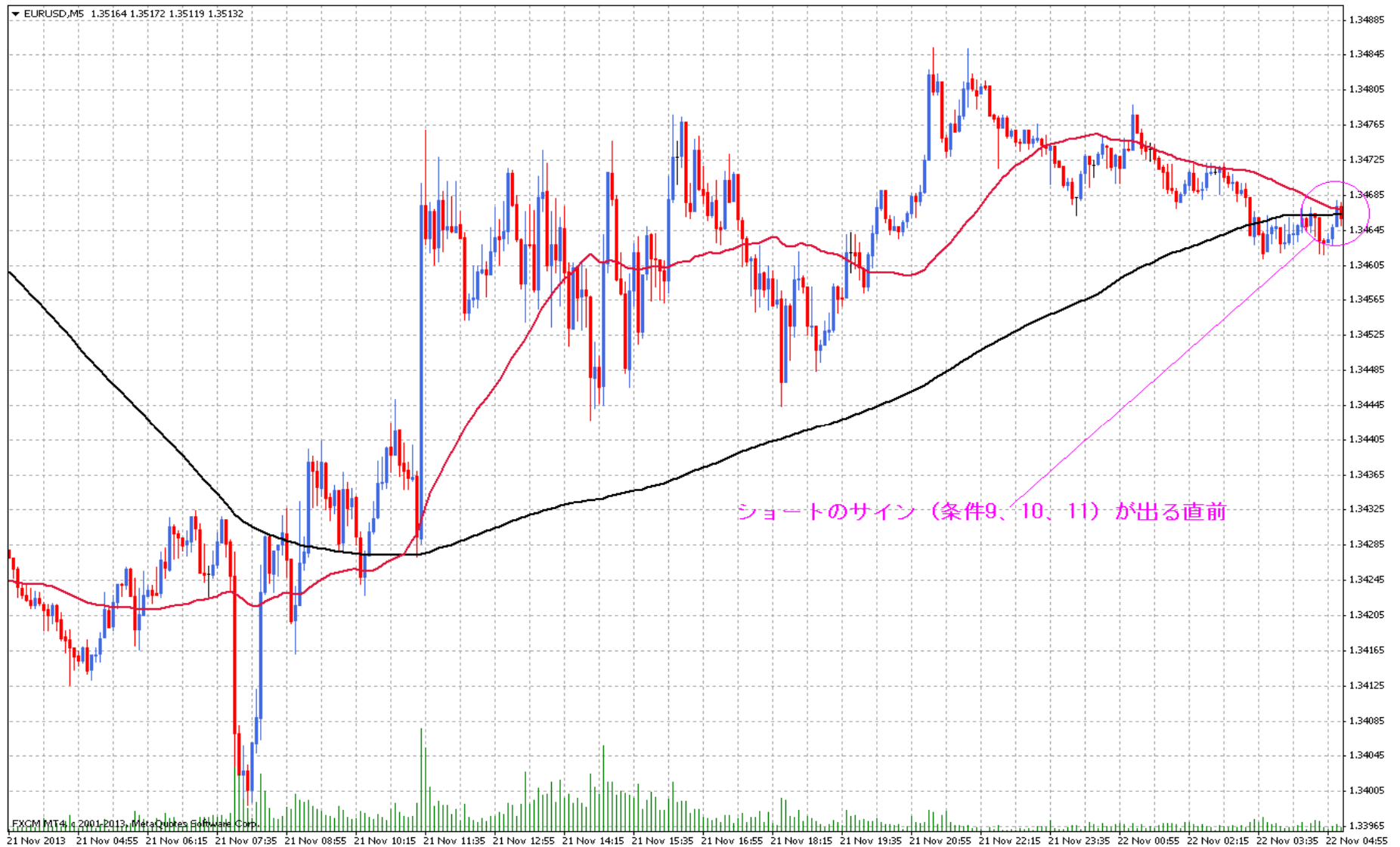
トレード事例④(ドル円ロング)



トレード事例④(ドル円ロング)

- この日はアゲアゲで、MAX30pipsで利確するにはもったいないように見えるが守る
- 緑の丸で囲んだ場面は、チャートを見ていたらついショートしたくなるが、条件1、2、3が継続した状態でのショートは非常に危険。買うタイミングを逃したとしても、私なら(緑の丸で)絶対にショートしない場面

トレード事例⑤(ルールを守らず失敗)



トレード事例⑤(ルールを守らず失敗)



トレード事例⑤(ルールを守らず失敗)

- ショートの条件9、10、11が出ると確信して、サインよりも前倒しでイン。
- その後、条件9が揃わず、しばらくしたら逆にロングのサインが出てしまい完全にアウト
- ルールを守れないバカは損する事例(実体験)

条件が揃ったことを逆手に取る考え方

- これまで、条件1、2、3が揃ったらロング、条件9、10、11が揃ったらショートと書いてきたが、それを逆に使って、少なくとも条件1、2、3が揃った状態でショートをしない、条件9、10、11が揃った状態でロングしないという逆の使い方もできる。
- この手法以外でやっているときにもこのことを意識していると無謀なインが減る

サインが出てもインしない事例(一部)

※絶対にインしない方がいいということではなく、経験上このような場合は可能性が下がるという意味

事例① 重要指標前後(概ね前後15分ぐらい)

事例② サインが出たときに40MAとローソク足に大きな乖離がある場合(この場合はトレンドフォローではなく急騰(急落)していると考えられる)乖離幅は概ね30pips程度

事例③ サインが出た直前に40MAと200MAが短時間でクロスを繰り返している場合(この場合はトレンドが出ていない場合が多いと考えられる)

他にもこのような事例はたくさんある

サインが出ててもインしない事例(③の場合)



他のインジケータとの組み合わせ

- 私がこの手法を試す場合、日足～1分足まで全部見て、RSIとパラボリック、重要なMA(例えば日足の200MAとか)、重要なTL(例えば三角保ち合いとか)などを同時に見ている。他にもボリンジャーバンドや出来高も表示して参考にしているが、慣れていないうちにあまりいろいろやると期待値が下がる可能性があるので、最初はシンプルに試した方がいいと思う

最後に

- 今回の「手法のようなもの」は、世の中に何十も何百も何千もある手法のひとつであって、全ての場面に有効というわけではない。数十個ある私のオリジナル手法のひとつ。ただ、こういう手法をいくつも自分の中に叩き込んでおけば、なんとなくインしてなんとなく損する場面が減るのは経験上間違いない。今回紹介した手法も含め、書籍や情報商材などを鵜呑みにするのではなく、研究検証しながらオリジナルの手法を確立できるようになれば、アベレージの高い勝てるトレーダーになれるのではと思う。このPDFファイルはこの手法を全て網羅したというものではなく、あくまでもブログに書いたことをまとめて見やすくするための目的である。

エラソーに書いているが自分がまだまだなのは言うまでもない